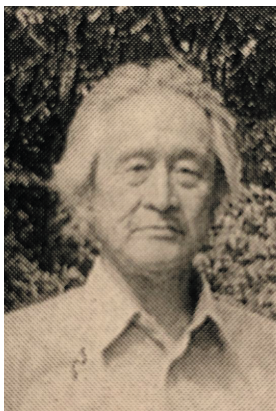


皆んなで選んだ
今月の秀句

「さざ波」が大穴あける五輪かな
難民が蹴り落とされる飢餓の穴
医師おらずベッドもなくて在宅死

目下 宏
遠田 亀公子
前田 大峰



「宣伝研究」
1997 年 7 月より
(75 歳)

岡田「杜さん」の博学は 海軍士官学校でたたき込まれた?!

「和川柳社」を設立した岡田一杜さんの経歴の一端が長崎在住の岡田仁さんからよせられました。一杜さんは個人的な話ばかりされませんでした。大変博学でした。

古典文学から科学、歴史にも精通されていました。仁さんは一杜さんの甥御さん。手紙を 10 頁に紹介しました。

コロナ禍、難民、五輪、現在地球の 3 つの「大問題」がそろって「秀句」に並びました。作者の力はさることながら共に選句されたみなさんの慧眼に感謝です。(周)

来月例会案内

6 月例会
投稿締切
課題「教」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

6 月 24 日 (木)
21 日 (月)
3 句以内
5 句以内

◆ 目次

川柳互選・課題吟「穴」	2
自由吟	3
おたより	5
川柳連作	7
亀公子の《川柳ひと言》	8
ほのぼの川柳	8
いせはらより転載／学術会議問題	9
岡田仁さんから手紙	10
戦争前夜抄《28》	11
「墨子を読みなさい」②	16
編集後記を兼ねて	16

6 月の例会は誌上です。

5月の 川柳互選

◆ 点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
◎3句以内。○全体の半数以内。

◆ 課題吟「穴」(互選)

一人3句以内吐

(投句15人/14人の互選)

1	思いやりの辺野古基地穴を埋め	大峰
1	十七年蟬の潜める穴深し	尉
1	復興のコロナ格差の絆という	宏
2	自眠党つき甲斐なし穴だらけ	未知子
2	老不様穴があつたら入りたい	尉
2	針の穴つついてゆがむ子育ては	未知子
2	穴があつても入ろうとせぬ蜥蜴 ^{とかげ} たち	徹乗
3	亡国の徒ら同穴の貉ども	尉
3	山道で穴掘るうり坊親はどこ	ひろみ
3	官邸は国政三連敗穴に入りたい	宏
4	我が人生大穴狙いの夢破れ	北の山
4	コロナの先に五輪の大穴埋め立てる	大峰

4	悪法排除アリの一穴入管法	白眞弓
4	針の穴突かずゆとりで子を守る	未知子
4	ワクチンも穴だらけで無責任	一角
4	穴があればと言うてはいるが笑ってる	ダン吉
5	空襲へ命を拾う防空壕	尊柳
5	あんらまあ二階の金庫は穴だらけ	立東爺
5	結局は私の掘った穴やった	ダン吉
5	墓穴を掘りつつ進む無策スガ	白眞弓
5	穴だとは思う作戦かもしれぬ	ダン吉
5	陥没の底でうごめく保守陣営	白眞弓
6	総理殿君の眼は穴です ^{まなこ} ね	一角
6	耳の穴かっぱじって聞け民の声	ふさこ
6	昭和史へアナニハマッタ15年	尊柳
7	二階には穴があるらし金が降る	立東爺
7	コロナ禍に後手後手政治で墓穴掘る	北の山
8	海に捨て穴に埋めても消えぬ汚染水	ふさこ
8	金権へ墓穴を掘った自民党	尊柳
8	コネ使い署名偽造穴だらけ	一角
9	買収費指示したあの人穴籠り	立東爺

9 正直に生きてる人ほど穴に落ち
 9 後手後手の官邸今日も掘る墓穴
 10 政治への無関心待つ落とし穴
 11 安倍八年政治に大きな穴を開け
 13 日の丸の遺品に残る弾のあと
 14 難民が蹴り落とされる飢餓の穴
 14 「さざ波」が大穴あける五輪かな

ふさこ
 亀公子
 徹乗
 徹乗
 亀公子
 亀公子
 宏

◆自由吟 (互選)

一人 5 句以内吐
 (投句 15 人 / 14 人の互選)

1 上を見上げ人生整理一〇二歳
 1 别人格彼の会社の大疑獄
 1 接種だけ完了受診控えたい
 1 敵の敵いずれ敵となる味方
 1 チコに叱られる民族対立世界中
 台湾へ肩入れをする菅首相
 支持低下代弁急ぐタレントら
 さざ波笑笑で医療崩壊しています

ひろみ
 白眞弓
 ダン吉
 立東爺
 未知子
 尊柳
 馬頭琴
 徹乗

1 ワクチンの噂と匂いはするのだが
 1 義理通し知らない事にして守る
 2 予防液私が体験と正義ぶる
 2 テレワーク三割とかができますか
 2 訪米で宿題かかげて民につけ
 2 大義名分民のためでも変わらぬ世
 2 大義名分民のためでも変わらぬ世
 2 日韓問題ピースボートの出番です
 2 ノウハウにコネもある某業界
 3 コロナ禍でどうにかズームについていき
 3 政権痛打異種株ことにインド株
 3 システムのチェック年寄り駆り出され
 3 緊急事医療逼迫五輪止め
 3 官邸の経済・五輪自助の圧
 3 「いじめ保険」二年で七倍誰がした
 3 ワクチンよあなたの成果切願す
 3 早すぎた解除の大阪医療機器
 3 道 500 人コロナ後手で五輪無理
 4 コロナの後を骸が追いかける
 4 思考停止されて人間朽ちて行く

一角
 立東爺
 ふさこ
 一角
 宏
 ふさこ
 ふさこ
 未知子
 一角
 北の山
 尉
 白眞弓
 宏
 宏
 未知子
 ひろみ
 尊柳
 宏
 大峰
 大峰

4	大阪姉行つたらあかん？来たらダメ！	ひろみ	7	1・5億田黙して語らぬ義理がたさ	立東爺
4	根絶を競う五輪ならやろう	ダン吉	7	神頼みベッド減らさせコロナ待つ	馬頭琴
4	商店街チェーン店だけひっそりと	ダン吉	7	風化してそろき老後の赤い糸	尉
4	改憲へ色気を示す菅首相	尊柳	7	五輪後は野となれバツハの行進曲	立東爺
4	融氷の未知のウィルスお通りだい	馬頭琴	8	堂々とまず言い逃れの権力者	ふさこ
4	いつの間に医者のもりの町長さん	ふさこ	8	コロナの火が都市文明を闇にする	亀公子
5	一輪のたんぽぽでよしこの夏は	白眞弓	8	総理答弁こわれたテープレコーダー	北の山
5	湧いて出た1・5億のなすり合い	北の山	8	咳ひとつにコロナ危ぶむ恐怖心	ひろみ
5	コロナの禍夫婦別居もその一つ	尉	9	グレーゾーンは言葉のあやで民をまく	ふさこ
5	やはりまたザルから漏れる消費税	馬頭琴	9	改憲を煽るコロナの裏舞台	亀公子
5	九条の改憲朕のために死ねるか	大峰	9	ワクチンの足らぬ会場密になり	徹乗
5	後手後手の宣言発する菅首相	尊柳	9	聞かれても知らぬ存ぜぬ金庫番	立東爺
6	原発もさざ波という怖くない	一角	9	第一声生きているかと言ってくる	ダン吉
6	緊急事態条項ナチスに倣うスガの腹	白眞弓	10	さざ波に右往左往の日本丸	亀公子
6	誹謗中傷弱者の捌け口SNS	未知子	10	その口で嘘八百のまつりごと	尉
6	日本の恥を晒した偽造署名	徹乗	10	五輪への暴走列車止まらない	徹乗
7	お悔やみ欄我より若い世代の死	尉	10	ニッポンでオリピックの変異株	一角
7	宣言の度に支持率低下する	尊柳	11	原発にNOの拳はおろすまい	亀公子
7	大本営の上にIOCが鎮座する	白眞弓	11	五、六波でも鳴るのか五輪のファンファーレ	大峰

外国人泣かす日の丸収容所

徹乗

入管に治安維持法目を覚まし

馬頭琴

核のゴミ札過大k束ひっさげ過疎ねらう

宏

汚染水海も言いたいことがある

ダン吉

札束が口を封じる再稼働

亀公子

医師おらずベッドもなくて在宅死

大峰

.....

◆お詫び 課題『穴』の2番目の尉^{じょう}さんの句、「十七

年蟬の潜める穴深し」が、選考資料では「穴探し」

と記載してしまいました。「穴さがし」ではなく

「穴ふかし」が正当です。申し訳ありませんでした。

昔を思い出し「セミと穴」で思わず「さがす」とキー

を打ってしまいました。この「十七年セミ」の幼

虫は地中で育ち、十七年目に地上で孵化繁殖す

る不思議なセミ。今年、北米で大繁殖し問題になっ

ています。有力な説では、セミの種が誕生したと

き、4年、8年、10年など多種類がいたはずで、

偶数年の種は地上で競合し繁殖できず、素数年

の種だけが生き延びたと言われています。「素数」

の不思議が隠されているんですね。興味のある方はネットでお調べ下さい。(編集子)

おたより

◆若林 高坊さんより (加賀市)

お疲れ様です。すみませんが、今月から9月いっぱいまで、投句、選句をお休みさせていただきます。

実は10月3日投開票の加賀市議会議員選挙に立候補準備をしています。

高坊さんから
新しい名刺が
届きました。



〒922-0276

市政に無関心な人はいても、
市政に無関係な人はいません

1973年7月生まれ、自然と動物が大好きで、
小さな畑で有機無農薬栽培を実践。
極力、合成洗剤や食品添加物を控え、環境負荷の
少ない健康な生活を目指しています。

◆足利 尊柳（小野寺 茂）さんより（足利市）

「和川柳社」3月会報の『戦争前夜抄』ダイジェスト版について——『戦争前夜抄』、過去25回の内容紹介を興味深く、歴史を振り返りながら拝読致しました。戦争前夜に至る新たな歴史的発見を通して、反戦史に挑戦され、実証的、客観的に考察追究されている姿を力作に敬服致しました。まことに恐縮ですが、以下のバックナンバーを希望致したく、お送り戴けますでしょうか。（以下略）

（続信）バックナンバー4部送付戴き感謝申しあげます。「プロレタリア文学運動の盲点」「戦争前夜抄」をはじめ、隅々まで読ませて戴きました。（略）後日改めて読後感をお送りしたいと思います。

◆岩佐ダン吉さんより（大阪）

あかつき川柳会、創立20周年記念行事としてメインに「合同句・文集」の発刊を決めました。最悪の事態下ですが、鶴彬の「反戦平和と社会風刺の精神を生かす会」（会則2条）として決行。ご

参加下さい。

◆坂本ふさこさんより（金沢）

もやもやと心の中にあるものがなかなか表現出来ずイライラしてついつい書きなぐろうと手帳いっぱいグチだらけ。本音をもっと救ってくれる政治を願っています。これも建てまえだけでコロリと変わる政治家となる？ もっと国民が強くならなくてはと思っても人権々々とうるさく言われるので皆小さくなって少子高齢化の社会の中はどんな様々な世界で格差社会になるともう棺桶に歩を入れている私は感じています。

◆山田和秋さんから出版記念パーティへのお誘い。

映画を観ることは社会を知ることだ

——「愛と怒りと闘い」の記録

出版記念パーティ

案内より抜粋——

「映画好きの著者が、老境に入ってついに出した映

画批評です。ただし世間そこらにある通常のそれではない。戦争、基地、原発、民主主義、差別、裁判、ジェンダー、貧困、独立といった視点から国内・海外の作品総数四十八本を収録。普通の映画館では観られない作品も多い。彼のエネルギーを称え、なお一層の研鑽を願って、パーティにご参加を」

呼びかけ人・鎌田慧（ルポライター） 他

◆日時：6月24日（木）12時より ◆場所：東京学院（JR水道橋西口下車） ◆参加費：1,000円（昼食費、著書代含む） ◆連絡先：090-4940-6925（山田）



山田 和秋（著）
発行：明石書店
四六判 208 ページ
価格 1,800 円 + 税

◆五月女ナオミさんより（横須賀市）

緊急事態、まん延防止…と、大変なことになっていますね。石川県の記事に驚きました。岸和田

文化連絡協議会の情報誌を送らせていただきます。岩佐ダン吉様の川柳の話題がトップにありました。会報お送り下さりありがとうございます。半藤一利さんの事、ラジオで聴いていて「墨子」読みたく思っています。中味の深くて濃い「和」を楽しみにしております。

~~~~~

川柳連作「汚染水」 遠田 亀公子

処理不能になつて言い出す安全度  
安全な水なら総理まずどうぞ  
安全と言う嘘くさい官邸語  
処理水の世論操作に走る国  
安全のヒビから漏れるトリチウム  
漁業者へ汚水のツケを押し付ける  
科学者も口裏合わせお膳立て  
処理水で育つ魚介を喰うあした  
竜宮を襲うプラごみ汚染水  
子々孫々母なる海は穢すまい

## 亀公子の《川柳ひと言》

私は何年か前から「川柳連作」というやり方を取っている。もともとは詩を書いていたのであるが、書けなくなつたのを境に川柳で自己表現をこころみたものの何故か不満を感じた。

一句の中に自分の思想や思い描く世界が、川柳を始めた頃は上手く表現出来なかつたからだ。そこで鶴彬が死ぬ4年前から集中的に実践した「川柳連作」という方法に、解決の道があるのではないかと思ひ至つた。鶴彬の評論を読み返してみると、彼は完膚なきまでに「川柳連作」の意義を私に説き明かしてくれていた。彼によれば定型律川柳はその内から突き破るものによって自由律川柳を産みだす必然性を持っているという。しかし鶴彬が最後に読んだ句は定型律川柳だった事を忘れてはならない。彼は最終的には定型律川柳が川柳の行き着く先だと言う事をも証明してくれたのである。

## ほのぼの川柳

走行距離のびてのびすぎ我が愛車  
我がクルマ地球何周すればいい？

神田 鯛

神田 鯛

体育館使えないけど頑張るよ

神田 鯛

シラン散りツツジも消えてすぐに夏

東 爺

ああしんど予約取るのに一週間

東 爺

## 学問や芸術の自由は人間の尊厳の礎

「沈黙の塔」に私たちを運ぶのか

—— 学術会議任命拒否問題 ——

「九条の会・いせはら」139号 2021/3/9より

自然主義や社会主義などという危険な書物を読む奴を殺しては「沈黙の塔」にその死骸を運ぶバアシイ族のお話。

これは森鷗外が一九一〇年の『三田文学』に発表した「沈黙の塔」という作品。バアシイ族から見れば、あらゆる学問も芸術も危険に見える。そ





れは芸術も学問もその真価は「因襲を破る処にある」からである。「どこの国、いつの世でも、新しい道を歩いて行く人の背後には、必ず反動者の群がいて隙を窺っている。そしてある機会に起って迫害を加える。ただ口実だけが国により時代によって変わる。

一九一〇年と言えば、幸徳秋水などが処刑された大逆事件のあった年。菅首相の学術会議任命拒否を鵬外は百十年前にすでに予知していた。

鵬外の作品にもう一つ『かのやうに』がある。天皇が天照大神の子孫で現人神であることを信じないと、日本では世の中をうまく生きていけない。それで天皇が現人神である「かのように」生きていく。これは戦後の今の世でも通用することではないだろうか。

※ 鵬外の作品は読み手にとっては正反対の受け止め方もあるようだ。

## スガノカルタ（偽川柳）――

桜見はもりかけそばと親子丼付き

オリパラはやらねばならぬと見栄を切る

謝って済むと思うな舐めたらあかん

コロナ下で付度優遇の百鬼夜行

神の国女性差別のお供え付き

パンデミック一億総懺悔で乗り切ろう

危機煽り権力集中の好期にす

感染も災害も一旦緩急アレハ義勇公ニ奉ズ

.....

※『九条の会・いせはら』はしっかりした会報を発行し、編集を浜本大蔵さんがされています。偽川柳なる川柳も掲載されています。浜本さんは金沢市大野（金石の隣町）の出身で、会報を送っていただいています。ありがとうございます。

## 朗報

「和川柳社」創設者・岡田一杜さん  
おかだ いっと  
 の経歴の一端が分かりました。

長崎市在住の甥っ子さん・岡田仁さんからお手紙が届きましたので紹介します。「和川柳社」は1955年創立。一杜さんは大變博學・多才な人で鶴彬を世に紹介し、卯辰山に碑を建設する中心になりました。しかし経歴などは不明でした。(^^)

叔父は 長崎市の岡田家で一九三二年六月一日に生まれました。

その後、「何歳の頃か又何故なのか分かりませんが、佐世保の山川家に養子として行ったそうです。佐世保では、市内北部万徳町周辺で、幼少期から小学校、中学校と過ごしたそうです。

その後、叔父の話によると、学校の推薦もあり、勉強強をして、江田島の海軍士官学校に入校したそうです。

江田島の教育は、徹底したスパルタ教育で、文武両道のみならず、あらゆる分野の知識を叩き込まれたそうです。あらゆる宗教、芸術、語学（特に英語

ドイツ語）一般教養、基礎体力等々正に、叔父の博識、多才の源は、この頃から培われたものではないかと思われます。

終戦後、東京で将校として武装解除を受けた叔父は、生まれ故郷の長崎に帰って来ました。

ご存知の通り、当時の状況は、全国至る所米国による無差別爆撃で、焦土と化しています。

特に長崎は、駅から浦上方面にかけては原子爆弾投下による無差別大量殺戮で、目も当てられない惨状だったそうです。

叔父は、浦上で廃材を集めてバラック小屋を立て、同じような仲間の人と、遺体を茶毘に付したりニコヨンに行って生計をたてたりしていたようです。

翌年、探していた私の母と再会して、私の家で暮すようになりました。

私どもと同居生活を送る事が出来たのは、1943〜51年頃までだったと思います。

その間、叔父は三菱長崎造船所に職工として勤めていましたが、労働運動のオルグとして全国を

飛び回っていたようです。

私も、メーデーとか組合のソフトボール大会などにいつて行つたのを記憶しています。

また、休みの日には、長崎周辺の山々へハイキングに連れて行つて貰つたの思い出として残っています。しかし、私が小学校四年か五年の頃、レツドパーズの発動により叔父の周辺は慌たしくなりました。

そして、間もなく叔父は、いなくなりました。

暫くして、母から石川県の金沢市に住んでいると聞かされました。

それから叔父と会つたのは、一五年の歳月を経て、私の結婚式の時でした。

叔父の名前は、山川健二ですが、金沢で活動するさい、山川の名前を使えないので岡田を使いたいの話があったと、母から聞いております。

岡田一吐の名前はその後からではないでしょうか。以上、取り留めのない話となつてしまいました。が、よろしく願ひいたします。

2021年6月1日

岡田 仁

草々

連載

# 戦争前夜抄

(28)

周立東爺

半藤一利さん

日本人へ最期のメッセージ

(2)

「昭和の精神」を支えた墨子、ぼくし

そして末利子夫人

《保阪正康さんが解説されていました。》

『サンデー毎日』(2021/2/28) 末利子夫人の手記の解説。

自らの史観を

100年後に手渡す意志

半藤さんがこの書を著した時は、80歳である。文中にもあるのだが、この年代に入つてからは、自らを「老耄」とか「老骨」といった表現で語るようになった。肉体には老いがあつたのだらうが、しかしその心中には『戦争への怒り』が渦巻いていた。その怒りは青年のように燃

えていることを、私は何度も感じるがあった。

言うまでもなく14歳の時に体験した東京大空襲である。逃げ回った時に見た光景の記憶が半藤さんの原点になっていた。赤子を背負った母親の死の姿、一家で焼死している光景、道路の死体の中を逃げ惑った体験を語る時は絶句することもあった。聞いている私も涙を拭った。その体験を原点にして、半藤史観は成り立っていた。それは、墨子の思想と出会うことで、さらに明確な形を取ることになったのである。

半藤さんと、本誌に連載コラムを持つ青木理さん、そして私はこれまで数回にわたって鼎談を開き、今後も続けることになっていた。これまでも何か事件、事象、社会に大きな動きがある時はこの鼎談を行ってきたのだが、今回はコロナ禍の社会状況を話題にしようと思っていた。半藤さんは、墨子についての話を軸にすることを考えていたのかもしれない。

同時に私は、近年の半藤さんが「100年」という単位にこだわりを見せていることに気がついていて

これも鼎談の席で話題になるのかもしれないと予想していた。これは私の想像になるのだが、半藤さんの心中には「100年」という単位に、それこそ万感の思いがあったのではないだろうか。それは一言で言えば、日本の今を近代史100年のスパンで考えるということであり、自らの史観を100年後の未来にも手渡すという覚悟である。末利子夫人の稿からも感じられるのだが、半藤さんは身を滅ぼしてもその精神を伝えたい、残したい、との思いを持たれていたのではなかっただろうか。

結局、今回の鼎談は実現しなかったが、その精神をこの鼎談シリーズのなかで、確かめたかったとの思いがあるのである。

半藤さんには歴史ノンフィクションといった分野とは別に、夏目漱石に関するエッセーや読み物の著作も多い。例えば、『漱石先生探偵ぞなもし』という読み物がある。この書の「はじめに」のなかで、漱石は元々は大学の先生だったが、教授として全うするよりは作家として身を立てようとしたと語り、1906年（明治39）に森田草平に宛てた書簡を紹介している。半藤

さんの著作からそのまま引用する。

「百年の後、百の博士は土と化し、千の教授も泥と変ずべし。余は吾文をもって百代の後に伝えんと欲するの野心家なり」そして半藤さんは、死して100年、その決意通り漱石は今なお読まれていると書き、その決意に敬意を表すると言っている。これはまさに半藤さんの目標ではなかったかと、私には思えるのである。あえて言えば、「半藤さん、あなたの史観は100年持たせませう」と私は言いたいのだ。それは、半藤史観の重要性と、それを受け継ぐ私たちの努力によってである。

### 半藤さんの「昭和の精神」を受け継がねばならない

実は私は半藤さんと二人で、現在の憲法を100年守ろうという運動を行っていた。とにかく100年残せば人類史の上で、記念碑にはなるであろう、あるいは国家意思また国民の意思が不戦であることは次代にも伝わるのではないかという趣旨である。さしあたり講演などで最後に一言でも言って、誰かが興味を持つ

ならそれでよし、という運動であった。並走しつつ、なぜ100年なのだろう、と私は思っていたが、半藤さんの中に漱石のこうした考え方があったのではなからうか。

憲法を100年持たせようとの対談本は、それほど売れなかったが、しかしこの「100年」といった発想の中に次代に託していくべきエキスが詰め込まれているといつていいのではないかとも思う。

末利子夫人の手記に触れて、私は改めて半藤さんを支えていたのは夫人の力が大きいとの感を受けた。これは大仰な物言いとは思わないが、末利子夫人の祖父・夏目漱石、父・松岡譲、そして夫・半藤一利という三人の作家は、夫人の祖母（鏡子）、母（筆子）との豊かな関係によっても支えられてきた。それによって、漱石の「明治の精神」、譲の「大正の精神」、一利の「昭和の精神」の良質の部分を私たちは学ぶことができるのである。

一利の「昭和の精神」とは、「昭和前期の過ちを昭和後期に教訓化して作りあげた精神」である。この精神を100年伝え続けていこうとの意思の支えが、歴史

上では2500年前の墨子であり、現実においては末利子夫人の存在だったとの思いがする。

半藤さんは歴史の中に生きている、そして我々を支えていると言えるのではないだろうか。我々は半藤さんの「昭和の精神」を受け継いでいかなければならないのである。  
(おわり)

## 半藤一利さんの「遺言」

### “墨子を読みなさい”

半藤さんが残された最晩年の著書『墨子よみがえる』が出版されたのが東北大地震・原発事故の年、2011年4月。『墨子よみがえる』のあとがきの最後に半藤さんは、次のように熱く締めくくっている。

.....

いま、これを書いているとき、日本国は、震度七の大地震と巨大津波と原発事故によって、未曾有の困難なときに遭遇しています。しかも、その一大事のなかにありながら、それを正しく認識していないのか、「想定外」と称して、この事態を正視しないままやり過ごそうとする

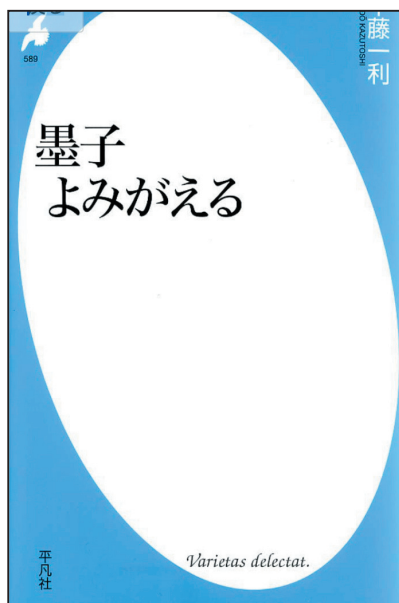
関係当局の人びとの安易な態度や、科学者・技術者の社会的責任の欠如が、いささか目に余るようにも思われます。

そういえば、岩波書店刊の月刊誌「世界」二〇一一年五月号に興味深い告発の文章が載っていました。いまだき「世界」に目をとおす人は少ないでしょうから、わが田に水を引くようであり、まことに長い引用となりますが、あえてご紹介させていただきます。筆者は石橋克彦さん、まったく存じあげない神戸大学名誉教授、地震学の先生です。

《半藤一利氏の『昭和史 1926—1945』（平凡社）を読むと、日本がアジア太平洋戦争を引きおこして敗戦に突き進んでいった過程が、現在の日本の「原発と地震」の問題にあまりにも似ているにおどろかされる。「根拠のない自己過信」と「失敗したときの底の知れない無責任さ」によって節目節目の重要な局面で判断を誤り、「起きては困ることは起こらないことにする」意識と、失敗を率直に認めない態度によって、戦争も原発も、さらなる失敗を重ねた。そして、多くの国民を不幸と苦難の底に突き落とした（落としてつつある）》

この一文を読むまでもなく、わたくしもこんどの原



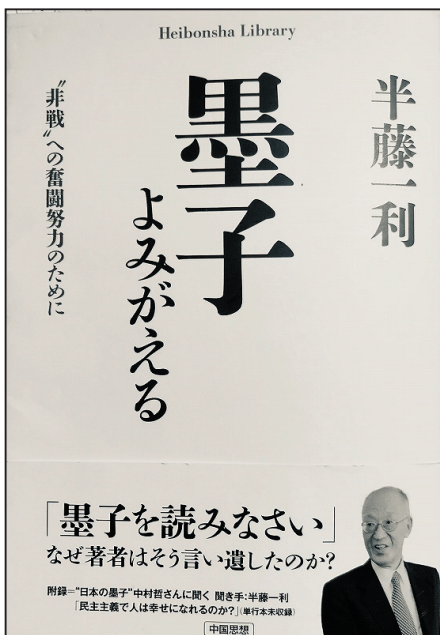


↑ 新書版 (2011 年)

↓ 今年発行の補強版 (2021/5/10)

発事故は「起きては困ることは起きないことに」という、かつての参謀本部や軍令部の参謀たちと同じことをやっているなど思っていました。あとから糊塗しても間に合わない。「想定外」という言葉はまさしく「根拠なき自己過信」と同じことです。

ここはそうした日本の明日の大問題を論じる場ではないのでこれ以上はやめることにします。ただ、このあと注意しなければならぬのは、これからの長く頼りない迷走と全体的な無力感と不安感ののつづくなかで、国民のこころのうちに醸成されてくるのは力への誘惑である、ということです。大正の関東大震災のあと間



半藤さんが現代の墨子とよぶ中村哲さんとの対談が追加されている。

もなく軍靴の音が高くなった。という歴史的事実がそれを証明します。

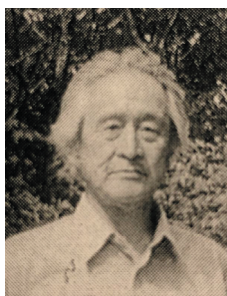
そのときにこそ、墨子です。われら日本人はひとしく、これまでの文明謳歌のキンキンギラギラをやめて、昔ながらのつつましい生活に戻って、義の尊さをしっかりと守りつつ世のため人のために奮闘努力する。これです。それがよき日本再建のための捷徑である、これ以外にはない、と考えます。

二〇一一年四月

半藤一利

## 編集後記を兼ねて

▼五輪開催を巡って官邸と専門家会議の関係がおかしい。菅総理は専門家に意見を聞こうとしない。▼五輪を開催すればその後に感染のまん延は必至。この無責任さは、半藤一利さんが書いた『墨子よみがえる』



お願い

岡田一杜さんの情報を求めています。過去の「和」の会報にも一杜さんの個人情報が出て来ません。一杜さんの資料を一つのデータベースにまとめたいのです。

の後書きの指摘がぴったり。先の戦争と重なります。14頁を確認してほしい。▼岡田一杜さんの来歴が岡田仁さんからのお手紙で一端を知ることができました。海軍士官学校出身だったんですね。▼いま秋山茂さんのソ連抑留記を本にまとめています。

改めて読むと戦争の無残、悲しさがこみあげます。一五〇頁ほどになります。乞うご期待……(周)

## 6月例会のご案内 (毎月第4木曜日)

- ◆例会 6月24日(木) ◆投稿×切…21日(月)
- ◆課題 「教」 3句以内 ◆自由吟…5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。
- ◆**コロナ急速拡大で例会は誌上となります。**

- 投稿 FAX(076) 254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は  
下段住所へ。

「和川柳社」会報  
会員募集しています！

同人：4000 円/年  
投句/購読：2000 円/年  
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房》オカリナ制作・上村彰

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目 15-30 (3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」